多摩ニュータウン南大沢 40 年 CI プロジェクトと
高齢者と子どもたちのエンパワーメント支援

炭谷　晃男　教授
(社会情報学部　社会情報学科　情報デザイン専攻)

１．経緯

2023 年に多摩ニュータウンの西部地域の拠点となる南大沢がまちづくり 40 周年を迎えました。まちびらき 40 年を経過した八王子市南大沢地区の再生プロジェクトに協力しながら、住民の方のエンパワーメントを支援するプロジェクトに取り組んだ。2021 年度にはオリンピック応援グッズの作製、2022 年度は「私たちの南大沢川柳募集」につづき、2023 年度はボッチャを通じて、地域の元気づくりと共生社会の実現をめざす「ボッチャ南大沢カップ 2023」を実施した。さらに、子どもプロジェクトとしての寺子屋活動は月に 1 回程度、八王子市内の小学校施設を借用して小学生のためのサタデースクールを実施するもので継続的に実施した。高齢者プロジェクトとしての高齢者サロン活動にも継続的支援に取り組んだ。

２．プロジェクト

a. ボッチャ南大沢カッププロジェクト

八王子市南大沢は多摩ニュータウンにおける西部地区の中心的地区となっている。当該地区で活動している市民団体である「南大沢コミュニティネットワーク」との協働事業として、ボッチャを通じて地元南大沢の元気づくりと共生社会の実現に貢献しようと実施しました。

実施日　　2024 年 2 月 25 日（日）13 時～16 時 30 分

会場　　東京都立南大沢学園体育館

参加団体　企業、障害者、高齢者、子どもの 4 ジャンルの参加団体を公募し、当初 12 チームを想定していたが、応募多数であったことから、15 チームに拡大して交流戦を行った。まさに、車椅子の方、小学生のグループ、大学生のグループ、障がい者グループ、高齢者サロングループと多様な人々が、互角に勝負できるのもボッチャの特徴であることを再認識させられた。

参加して頂いたみなさんの反応は大変よかった。ただし、会場は 17 時までに撤収しなければならなかったので、各チームから 1 名ずつ出してもらい、「みんなでボッチャ」の交流し合いを行う予定でしたが、それができなかったのは残念でした。2024 年度も、好評だった「出前ボッチャ体験」を継続していきたいと考えます。

さらに、参加して頂いた皆さんとつながりを持ち、今後のつながり活動について、皆さんから要望を伺い、この企画を発展させていきたいと考えます。詳細は大会の報告書（QR コード）を参照頂きたい。



ボッチャ南大沢カップ 2023
募集チラシ


ボッチャ南大沢カップ 2023　開会式

b. 子どもの居場所プロジェクト：寺子屋

大妻多摩キャンバス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を実施している。寺子屋の活動内容としては寺子屋学習教室（漢字検定）、ボッチャ、プログラミングカー、万華鏡教室はじめ Xmas や正月ゲームなど季節行事も行っている。ペットボトルロケットにより SDGs の学びにつなげた。この寺子屋でもボッチャ教室を行い、はじめてボッチャをする方々への体験会を実施した。2 月寺子屋では、ボッチャ南大沢カップ直前という事もあり、教室に多数参加していただき、プレ予選会さながらであった。また、3 月には寺子屋の締めくくりとして「竹たま里山まつり」を堀之内寺沢里山公園で実施した。3 年ゼミ生総出で取り組んだが、1 時過ぎからあいにくの雨になり、その時点でイベントを中止した。



寺子屋でのボッチャ教室



竹たま里山まつり

「竹たま里山まつり」についてタウンニュースに記事（右 QR コード参照）が掲載されました。

c. 高齢者の居場所づくり：高齢者サロン

ボッチャは、老若男女誰でも、障害の有無を超えて楽しめるユニバーサルスポーツとしてボッチャがオリンピックのレガシーとして定着してほしいと願ってこれまで取り組んできた。高齢者サロンで障害者と高齢者が一緒になってプレイを楽しむことができた。何気ない風景だが感動を覚えます。ただ、高齢者スマホ教室ができなかったのは残念だった。来年度は高齢者のデジタルディバイドに向けた活動を行う予定です。



高齢者サロンでの出前ボッチャ体験

３．結び

以上のように、23 年度の活動としてはボッチャ南大沢カップ 2023 が中心となったが、こどもプロジェクトとしてもボッチャ教室を実施した。高齢者プロジェクトでも、各サロンにおじゃましてボッチャ体験を実施させていただいた。その意味で、私たちの 2023 年度の活動はボッチャが横つなぎしていた。さらに、学生達にこのような地域社会で、他の団体とのコラボレーションを通じて、子どもや大人にかかわる機会を与えて頂いた「大妻女子大学地域連携プロジェクト」に感謝申し上げる。